

# 事業完了報告書（実行団体）

事業名:	秋田ノーザンハビネッツ子ども食堂「みんなのテーブル」の運営
資金分配団体名:	一般社団法人RCF
実行団体名:	秋田ノーザンハビネッツ株式会社
実施時期:	2021年 7月～2022年 2月
事業対象地域:	秋田県
事業対象者:	秋田市内の困窮家庭のこどもたちとその保護者

Version 3.2  
日付: 2022年3月8日

## I. 事業概要

事業実施概要	<p>新型コロナウイルスにより、多くの秋田県民の生活に影響が及んでいる。特にひとり親家庭の保護者は飲食店で勤務していることも多く、勤め先の時短営業や閉店によって収入が減り、生活状況が悪化しているケースが行政・社会福祉協議会に数多く報告されている。こうした社会状況を踏まえ、秋田ノーザンハビネッツでは早急な打ち手である単発の子ども食堂を2021年7月～9月に月に一度実施した。また、継続性の観点から、秋田県内初となる常設の子ども食堂「みんなのテーブル」を2021年10月末より新設し、運営している。「みんなのテーブル」では、困窮家庭のこどもたちとその保護者にアプローチすることを大切にしつつも、線引きはせず、所得水準・年齢・性別関係なく誰もが訪れられる、明るく楽しい食堂というコンセプトを大切に運営している。秋田ノーザンハビネッツのヘッドコーチ（監督）やプロバスケットボール選手も食事にくる。そしてみんなのテーブルで提供する食事は管理栄養士監修のもと栄養バランスが整ったものとなっており、週に4日間の営業を継続しておこなっている。中学生以下のこどもは無料、高校生は300円、一般の大人は1,000円で、ひとり親についてはそれが証明できる場合に限り週に一度無料でご利用いただける体制を取っている。</p>
--------	--

## II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<p>事業全体を振り返ると、ほぼ予定通りの活動を進められた。7～9月におこなった月に一度のイベント、そして常設の子ども食堂ともに、想定を超えるこどもやその保護者たちに利用いただいております。イベントでは100名程度、常設の子ども食堂については1,044名（内こどもが479人、ひとり親家庭の保護者が479人 ※2022年2月末時点）に利用いただいている。この結果、初期の課題設定について、コロナ禍の影響から炙り出された潜在的な課題と、その影響でより悪化してしまった課題が、それぞれひとり親家庭の生活を悪化させているという仮説を立てたが、利用状況や子ども食堂利用者の声を考慮すると、おおむね適切だったと思われる。</p> <p>事業の設計としては、迅速な支援策としてのイベントと、継続的な支援としての常設の子ども食堂をおこなったが、いずれも支援対象者のニーズを満たすことができているように思う。常設の子ども食堂について、持続的な運営を考慮した際に、支出を減らすことと、運営に必要な収入を獲得することを目的に、ヒト・モノ・カネの3つの視点から目標設定をしたが、いずれも順調に整備ができてきている。</p> <p>事業実施にあたっては、常設の子ども食堂を利用するひとり親家庭に会員登録をおこなっていただくことで、継続的に利用していただきやすくなっただけでなく、必要に応じてその他の支援を紹介しやすい仕組みへと繋がったことは工夫した点である。</p>
-------------------	---

## III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
こども・学生	食料関連の不足	1. 秋田市内において、困窮家庭のこどもとその保護者が子ども食堂「みんなのテーブル」で食事ができている状態。	困窮家庭へ配る無料チケットが子ども食堂「みんなのテーブル」で使われた枚数の測定。	延べ100枚以上	<ul style="list-style-type: none"> <li>こども利用者数：延べ542人</li> <li>ひとり親家庭の保護者利用者数：延べ479枚 ※ひとり親家庭の保護者に無料でご利用いただいているので無料チケットを配布したのと同様の状況</li> <li>全体の利用者数：延べ1,044人</li> </ul>	困窮家庭の定義をひとり親かつ児童扶養手当受給家庭とし、市役所と連携するかたちで無料チケット付きのチラシを配布した。また初回利用者に対して会員登録（2月末時点でひとり親家庭の66人の保護者が登録）を行い、ひとり親である保護者も週に一度無料で子ども食堂を利用できる環境を作った。左記の数字は対象のひとり親家庭の保護者の利用者数（延べ数）でもある。
その他	その他	2. 秋田県内において、子ども食堂やみんなのテーブルの認知度が向上している状態。	①各種メディアを用い、子ども食堂やみんなのテーブルに関する情報発信でリーチした累積人数。 ②みんなのテーブル利用者の累積人数。	①延べ1,000,000人以上 ②延べ500人以上	①延べ1,300,000人以上にはリーチしていると想定される。 ②延べ約1,150人	支援対象者である困窮家庭のこどもやその保護者については、市役所やNPO経由で限定的に配布するチラシなどで告知をおこなった。結果、左記のような人数の利用者数となっている。一方、一般に向けた子ども食堂についての発信については、「X. 広報実績」にもあるとおり、各種メディアに大体的に20回ほど取り上げていただき、かなりの数リーチしたと思われる。左の数は新聞などの発行部数などをもとに算出した数字であり、より多くの人たちにリーチしていることが想定される。
こども・学生	相談先の不足	3. 秋田市内において、イベントと子ども食堂「みんなのテーブル」の訪問者のうち、子ども食堂だけでは解決できない課題を抱えている家庭が存在した場合に、その家庭をサポートすることができるネットワークと連携ができおり、クラブが紹介可能な状態。	課題を抱えている家庭が気軽に専門機関（その課題に長年向き合ってきたNPO・社会福祉協議会・行政など）に相談ができるよう、クラブが窓口となっているか否か。	<ul style="list-style-type: none"> <li>LINEや電話などを通して、課題ごとに専門機関に相談ができる状態。</li> <li>子ども食堂「みんなのテーブル」の従業員・ボランティアが、課題を抱えているこども・家庭へサポートをする上で、共通の認識を持っており、かつ、チェック項目を用いてこどもの状態を把握できている状態。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ネットワークを作成し、秋田ノーザンハビネッツを窓口として課題ごとに相談できる状態を構築済み。</li> <li>運営スタッフとして働く前に共通の研修を用意し、実施。スタッフ全員が同じ認識を持って働けるようにしている。また、日々の運営において利用者の記録をしっかりとることにより、共通の認識を持てるようにしている。</li> </ul>	秋田ノーザンハビネッツが独自で各専門機関との連携を図るための連絡網を設計しているが、秋田県社会福祉協議会が運営する「あきたこども応援ネットワーク」にも加盟しており、継続的な食糧支援や、学習支援団体などとも通じているため、必要に応じて紹介をできる体制も構築している。  またチェックリストについては、具体的な事例を利用者の個人情報保護した上でスタッフ間で共有することで、運営時の対応の質の向上を図っており、現状安心感のある空間を作ることができていると考察する。

子ども・学生	学習機会の不足/格差	4. 子ども食堂「みんなのテーブル」へ参加した子どもとその保護者が、他の社会的な場へアクセスが可能な状態。	子ども食堂「みんなのテーブル」から、社会的な場である秋田県児童会館や秋田ノーザンハビネッツの試会場へアクセスできる状態にあるかどうか。	子ども食堂「みんなのテーブル」を訪問した子ども・家庭のうち、一部希望者が秋田県児童会館や秋田ノーザンハビネッツの試会場へアクセスできている状態。	・児童会館のチラシやその他の地域施設・活動のチラシをみんなのテーブルに設置。結果、利用者がアクセスしている事例も出ている。 ・子ども食堂「みんなのテーブル」の会員（ひとり親家庭かつ児童扶養手当受給家庭）に対して、保護者と子どもを対象に人数分のチケットを用意し、試会場へ招待。全部で保護者を85名、子どもを160名招待。	現状、NPOや自チームの活動への接続ポイントを作ることで社会的な場へアクセスする機会を作れている。今後については、より多様な機会を提供することを企業や他の機関と連携することで図っていききたい。
その他	事業実施上の困難	5. 常設の子ども食堂について、持続的な運営ができるよう、オペレーション方法に見込みがたっている状態。	資金面・人材面・食材面のそれぞれから見て、持続可能な運営が見込めるかどうか。	それぞれの面から見て問題なく、持続的な運営が見込めている状態。	・維持費について 秋田ノーザンハビネッツの子ども食堂「みんなのテーブル」の活動を含めるSDGs活動を応援して下さる企業数社とすでにスポンサー契約が成約しており、今後さらに連携を強化していく。 ・人材について 有給スタッフ、ボランティア、NPOの方と多様な人が関わっており、ともに運営の場を築いているフェイズ。 ・食材について お米、野菜・果物、卵・肉類の寄付を多くいただいている。企業と連携し、規格外等不要な部分について持続的に寄付いただけるように継続的な連携を図る。	・維持費について 新規のスポンサー獲得の見込みもたっており、今後も運営費の獲得が見込める。一方でその他収入獲得手段を作っていく必要があり、企業以外も含めて収益源を中長期的に設計していく必要がある。 ・人材について 幅広い人たちが関わることで運営が回っている状況。将来的にこの状況を維持するために、ボランティアの人に継続的に参加してもらえるスキームづくりや、一部の人たちに集中しているタスクを分散化するような組織づくりをさらに進める予定。 ・食材について 上記のものについては集めることができているが、これはプロスポーツチームの特性を生かし、効果的に発信することや、協力依頼ができた結果であると考察する。今後については、魚などその他食材についても寄付をいただけるよう調整を図っていく。

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）\*

事業実施以降に目標とする状況	<p>&lt;中期アウトカム&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 秋田市において、子ども食堂に行くことに対してポジティブなイメージを持っている社会。</li> <li>2. 秋田市において、困窮家庭を地域社会で支え、子育てが孤立していない社会。</li> <li>3. 秋田市において、子どもだけでなく多世代の人々が集うコミュニティが醸成されている地域社会。</li> <li>4. 秋田県内において、子ども食堂の認知度が向上している状態。</li> <li>5. 秋田県内における、その他の子ども食堂や行政などの連携によるネットワークが確立された社会。</li> <li>6. 寄付だけを収益源としない、持続可能な子ども食堂のモデルの確立。</li> </ol> <p>&lt;長期アウトカム&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>7. 秋田市において、子どもたちが子ども食堂で食事をすることが文化になっている社会。</li> <li>8. 秋田県内において、秋田市外でも、常設の子ども食堂の店舗が広がっている社会。</li> <li>9. 秋田県内において、常設の子ども食堂の店舗を利用した子どもたちが大人になって活躍している社会。</li> </ol>
考察等	<p>1.においては、一般家庭も常設の子ども食堂を一定数利用していることや、支援対象者の利用人数・利用状況を考慮するとネガティブイメージは軽減してきているのではないかと考えられる。2については、寄付食材が集まっていること、そしてボランティアなども多数参加があることなど、子育てを支援したい人たちのサポートが可視化され始めている。また、支援対象者の継続利用の実態から子育ての一部支援はできているように考える。3については、利用者側・運営側問わず老若男女が利用したり、関わったりしている点で意味あるコミュニティとしての芽が出始めている。4については、「X. 広報実績」にもあるとおり各種メディアに多数取り上げていただいたので、認知度の向上は図れつつあり、今後も常設の子ども食堂を継続していくこととそれを有効に発信することでさらなる認知度向上を目指したい。5については、秋田県社会福祉協議会主導の「あきた子ども応援ネットワーク」がその機能を果たしており、秋田ノーザンハビネッツもそこに所属することで、各場面で適切な連携が取れている。6については、スポンサー収入を軸とした収益モデルを確立しつつある。ただ、その他の収益源についても今後模索をしていこうと考えている。7は、常設の子ども食堂を継続していった先に目指す未来像の一つなのでまずは持続的な運営をおこなっていくことを目指す。8については、県内外の当取り組みに関心を持つ組織から連絡をいただいたりしており、近い未来、常設の子ども食堂が広がる可能性も高い。9については、今常設の子ども食堂に通っている子どもたちが活躍できるような土壌を子ども食堂以外の取り組みも含め作っていく必要があり、クラブとしては今後もそういった活動に尽力していく予定である。</p>

V. 活動

活動	進捗	概要
1-1. ども食堂「みんなのテーブル」で大人も無料で食事ができる「無料チケット」をともに配布してくれるNPOと連携。	計画通り	配布にご協力いただいたNPOの数は5団体ほど。中でも発信力がある2団体経由で告知いただきリーチした困窮家庭に無料チケットを配布している。また、2021年11月末には無料チケット付きチラシの配布を、ひとり親かつ児童扶養手当を受給している家庭に対して、秋田市役所経由で2,500部配布した。
1-2. 1-1で連携しているNPOから、ども食堂「みんなのテーブル」の「無料チケット」の配布。	計画通り	常設のども食堂について、2022年10月までに約30家庭ほどに2枚ずつ無料チケット付きチラシを配布済み、つまり合計60枚のチケットを配布した。また、2021年11月末には、市役所経由で、ひとり親かつ児童扶養手当を受給している家庭、約2500世帯に対して、無料チケット1枚付きのチラシを配布した。当初想定していた「延べ配布枚数：300枚程度」だったが、無料招待券を配布したから必ず訪問するとは限らない点、そして秋田市内にいる児童扶養手当受給家庭に対する平等性の観点から枚数を増やして配布した。また、常設のども食堂に当チラシを持参した支援対象者に対して会員登録を促し、保護者についても1週間に1度無料で食事ができるようにしている。その結果、継続的な利用へと繋がっている。
1-3. プレイベントの実施をNPO・行政・社協からの告知活動により知り、参加した人数。このルートからの参加者は困窮家庭の可能性が比較的高いため。	計画通り	7～9月まで、月に一度、合計3回プレイベントを実施。各イベントに約40名ほどの参加者が来店。9月のみクラブの公式Webサイト・SNSで発信し、集客をしたが、7月・8月についてはNPO・行政・社協からの告知のみで集客。結果、ターゲットにしていた支援対象者（困窮家庭）の延べ参加者数は約100人程度だった。
2-1. 秋田地方マスメディアからの、ども食堂「みんなのテーブル」に対する取材。	計画通り	下記「VIII. 広報実績」に記載の通り、今までの活動で20回ほどメディアに取り上げていただいた。当初2回以上の取材回数を見込んでいただけて、予想以上の反響を得ていると言える
2-2. ども食堂「みんなのテーブル」公式SNSでのども食堂やみんなのテーブルに関する発信。	計画通り	みんなのテーブルの公式HP・Instagram・Twitterを、オープン時（2021年10月29日）に作成。Instagram・Twitterともに、投稿を営業日にメニュー内容や写真などを投稿をしている。Instagramは60回、Twitterは171回投稿しており、公式SNSでの投稿数は合計231回となっている（2022年2月末時点）。事業計画では15回以上を目標にしていたので、目標は達成している。
2-3. 秋田ノーザンハビネッツのBリーグ試合運営時や地域コミュニティ活動時にチラシを配布。	計画通り	チラシ30,000部を制作し、試合会場、連携している専門機関（市役所・NPOなど）、学校などを通して配布した。
3-1 専門機関として課題を抱えている家庭のサポートを行うことが可能なNPOの数	計画通り	課題を抱えている家庭が来店した際に、ご紹介できるNPOの数は5社ほどある。とりわけ2社と密に連携が取れている。
3-2 課題を抱えたどもや家庭が行政や社会福祉協議会などによるサポートを受けられるような体制の構築。	計画通り	当初想定した下記の連携体制は構築できている。 ===== ・秋田市役所：ども未来部 ども総務課とども未来センターへのチラシ設置。ども未来センターのチラシを常設のども食堂へ設置。また課題を抱えた家庭がども食堂に訪問した場合に、ワンストップの窓口としてども未来センターを紹介する。 ・秋田県庁：情報交換を続ける。 ・秋田市社会福祉協議会：困窮家庭がきた場合に、ども食堂「みんなのテーブル」へ案内いただく。 ・秋田県社会福祉協議会：秋田県社会福祉協議会主導の「あきたども応援ネットワーク」に参加。
3-3 ども食堂「みんなのテーブル」の従業員・ボランティアが、課題を抱えたども・家庭が来店した場合、対応できるだけの知識を身につけている。	計画通り	従業員・ボランティアとともに共通の知識を持って活動するために事前研修を実施している。また個人情報に配慮しつつ来場者のログを取ることで、具体的な事例を踏まえた対応ができる体制を構築できている。
4-1 ども食堂への参加者のうち希望者に対してチケットの配布。	計画通り	ども食堂「みんなのテーブル」の会員登録者（ひとり親家庭かつ児童扶養手当受給者でみんなのテーブルを1回以上利用したことのある家庭）へ、保護者とどもの人数分のチケットを配布。
4-2 ども食堂「みんなのテーブル」に秋田県児童会館のチラシの設置。	計画通り	プレイベントではチラシの設置を複数回にわたってして下さった。常設のども食堂についてもチラシを設置していただいている。
5-1 持続的な運営に必要な資金が獲得できる見込みがたつ。	計画通り	スポンサーいただいた金額の一部を、ども食堂の運営資金にも活用する「SDGsパートナー」を新設。スポンサー企業が現在数社いる。営業活動は継続して実施中。また、そのほかの資金獲得に向けて、企業だけでなく個人についても応援してもらえるような仕組みづくりをしている。
5-2 一次産業者から食材の寄付が可能になっている。	計画通り	秋田市・近隣の個人農家さんから個別で寄付のお問い合わせを多くいただいております。お米や野菜のご寄付をいただいている。また、市内飲食店、企業・養鶏場とも連携し、規格外品等の継続的な支援もいただいている。既存の連携先と継続的なつながりを作るだけでなく、その他企業との連携も図ることでさらなる寄付の調達もおこなっていく。
5-3 持続的な運営のために、必要な人的リソースを確保できている状態。	計画通り	有給スタッフ、ボランティア、管理栄養士、NPOなど多くの人が関わることによって運営をしている。今後については管理栄養士をもう1人雇用することでより業務分散をし、より長期的な運営ができる仕組みを構築していく。

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	事業実施以前では想定していなかったアウトカムとして、①想像を超えたども・ひとり親家庭の保護者の利用者数、②利用者の多様性の高さ、③利用者間の繋がりの醸成、④運営側として参加している人々へのポジティブな影響、そして⑤県内外への社会的な影響がある。 まず①としては、上記III.でも記載の通り、想像を超えた数の利用者にご利用いただいたが、とりわけメインターゲットにしていた困窮家庭のどもと保護者のリピート率が非常に高い点は事業を実施してみてわかったことである。②については、ども食堂に来店するのは、母親とどものパターンだけでなく、どもだけのパターンや、父子家庭のパターンもあり、また近隣の高齢者にもご利用いただいた事例もあった。③については、①のアウトカムで記載の通り、リピーター率が高く、利用者同士が顔馴染みになり、途中から一緒に来店するケースも増えた。またスタッフと仲良くなりスタッフに会うために来る利用者も出てきた。④については、運営スタッフ同士で会話して聞いていたこととして、「ここで活動するのが楽しい」「生き甲斐になっている」「勉強になっている」といった声がある。これは運営をする側にとってもども食堂が良い影響を与えていることを示している。⑤としては、当事業が県内外の関連組織などからモデルケースとして注目されるようになり、講演依頼を受けるだけでなく、同じような取り組みを検討している組織が現れ始めたことである。これは長期アウトカムとして想定していた事象だが、想定より早くこういったことが起こっている。
---------------------	---

**VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動**

<b>課題を取り巻く変化</b>	<p>事業実施を通して、課題を取り巻く環境や対象者の状況が変化したこととして、下記の2つが主にあげられる。</p> <p>1つ目は当事業により、子ども食堂そのものの取り組みが秋田県内に広まり、対象者ではない個人や企業の関心を集めつつある点である。特に企業については、昨今のSDGsやESG経営への関心に基づき、子ども食堂のような社会的な活動に関心を持つところも増えてきている。よって秋田ノーザンハビネッツとしては、今後こういった企業と連携しながら、当事業を継続的なものにして、さらには新たな社会的体験を対象者である子どもたちが受けられるような仕組みを構築し、社会的な体験格差を少しでも減らすことを目指したい。</p> <p>2つ目は当事業から派生してその他の社会的な取り組みや組織への接続が増えてきたことや、秋田ノーザンハビネッツとしても他の取り組みを行うことで支援の幅を広げられる点にある。具体的にはNPOなどと連携しながらフードドライブを試合会場で実施することにより、そこで集まった食材をNPO経由で配布し、対象者に食材を届けるような活動も始まっている。</p> <p>以上のような取り組みにより、まだまだ秋田県の子ども食堂にまつわる子どもの貧困・子育ての孤立化といった課題は深刻だが、対象者の取り巻く環境は変化しつつある。</p>
------------------	--

**VIII. 他団体との連携**

連携先	実施内容・結果
秋田市役所 子ども未来部 子ども総務課（子ども未来センター）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・窓口での当事業の紹介、チラシ配布をしていただいた。</li> <li>・当事業では解決できない課題を抱えた子ども/家庭がいたときに、子ども未来センターを紹介し、その他行政サービスなどを提供できる体制の構築を行った。</li> </ul>
秋田県庁 健康福祉部 地域・家庭福祉課	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども食堂や子どもの貧困に関する情報交換。アドバイスをいただいた。</li> </ul>
秋田県社会福祉協議会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あきた子ども応援ネットワークを主導。NPO、行政など、関係専門機関のハブ的機能を果たしてもらい、案件ごとに繋いでいただいた。</li> <li>・当事業と直接的には関係ないが、秋田ノーザンハビネッツの試合会場で実施したフードドライブなどでは連携先になるNPOの紹介をしていただいたり、共同で実施もした。</li> </ul>
特定非営利活動法人 あきた子どもネット	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月～9月のイベント、常設の子ども食堂の運営をサポートいただいた。告知活動でもご協力いただいた。</li> <li>・長年子ども食堂をやられてきた経験から、アドバイスをいただいた。</li> <li>・食料支援について、フードドライブなどで連携しつつ、困窮家庭に食材を届けた。</li> <li>・あきた子どもネットさん主催のイベントに秋田ノーザンハビネッツの社員が参加したり、逆にあきた子どもネットさんの運営する秋田県児童会館に通う親子を試合会場に招待したりもした。</li> <li>・フードドライブを共同で実施した。</li> <li>・試合会場への招待においても協力いただいた。</li> <li>・常設の子ども食堂にもボランティアスタッフとして参加していただいている。</li> </ul>
特定非営利活動法人秋田たすけあいネットあゆむ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月～9月のイベント、常設の子ども食堂において告知活動にご協力いただいた。</li> <li>・長年子ども食堂をやられてきた経験から、アドバイスをいただいた。</li> <li>・フードドライブを共同で実施した。</li> <li>・試合会場への招待においても協力いただいた。</li> <li>・当事業に必要な食品・備品などを一部寄付いただいた。</li> </ul>

**IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。（精算金額と一致させる必要はありません）**

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	10,939,110	10,908,613	99.7%
	管理的経費	1,756,000	1,756,000	100.0%
合計		12,695,110	12,664,613	99.8%
補足説明				

**X. 広報実績**

広報内容	内容
1.メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	<p>秋田魁新報（2021/8/3）：子ども食堂新設発表記者会見の内容を記載した記事</p> <p>秋田朝日放送（2021/8/4）：子ども食堂新設発表記者会見の映像を使用したニュース（18:15～放送「トレタテ！」内） <a href="https://www.aab-tv.co.jp/news/detail.php?e=210804120132600">https://www.aab-tv.co.jp/news/detail.php?e=210804120132600</a></p> <p>毎日新聞（2021/8/5）：子ども食堂新設発表記者会見の内容を記載した記事</p> <p>朝日新聞（2021/8/13）：子ども食堂新設発表記者会見の内容を記載した記事 <a href="https://www.asahi.com/articles/ASP8D6THHP82ULUC021.html">https://www.asahi.com/articles/ASP8D6THHP82ULUC021.html</a></p> <p>ガジェット通信（2021/8/16）：子ども食堂新設発表記者会見の内容を記載した記事 <a href="https://getnews.jp/archives/3081229">https://getnews.jp/archives/3081229</a></p> <p>河北新報（2021/8/17）：子ども食堂新設発表記者会見の内容を記載した記事</p> <p>秋田テレビ（2021/10/16）：フードドライブを活用した取り組みで子ども食堂を取材（「土曜ライブ！」内）</p> <p>河北新報（2021/10/28）：子ども食堂オープンについての記事 <a href="https://kahoku.news/articles/20211028khn000030.html">https://kahoku.news/articles/20211028khn000030.html</a></p> <p>朝日新聞（2021/10/29）：子ども食堂オープンについての記事 <a href="https://digital.asahi.com/articles/ASPBX76WHPBXULUC00D.html">https://digital.asahi.com/articles/ASPBX76WHPBXULUC00D.html</a></p> <p>読売新聞（2021/10/29）：子ども食堂オープンについての記事</p> <p>秋田テレビ（2021/10/29）：子ども食堂オープンについてのニュース <a href="https://www.fnn.jp/articles/-/259710">https://www.fnn.jp/articles/-/259710</a></p> <p>秋田魁新報（2021/10/30）：子ども食堂オープンについての記事 <a href="https://www.msn.com/ja-jp/news/opinion/%E3%83%8F%E3%83%94%E3%83%8D%E3%83%83%E3%83%84%E9%81%8B%E5%96%B6%E3%81%AE%E5%B8%B8%E8%A8%AD%E5%AD%90%E3%81%A9%E3%82%82%E9%A3%9F%E5%A0%82%E3%81%8C%E3%82%AA%E3%83%BC%E3%83%97%E3%83%B3-%E7%A7%8B%E7%94%B0%E5%B8%82%E5%BA%83%E9%9D%A2/ar-AAQ60Vvk">https://www.msn.com/ja-jp/news/opinion/%E3%83%8F%E3%83%94%E3%83%8D%E3%83%83%E3%83%84%E9%81%8B%E5%96%B6%E3%81%AE%E5%B8%B8%E8%A8%AD%E5%AD%90%E3%81%A9%E3%82%82%E9%A3%9F%E5%A0%82%E3%81%8C%E3%82%AA%E3%83%BC%E3%83%97%E3%83%B3-%E7%A7%8B%E7%94%B0%E5%B8%82%E5%BA%83%E9%9D%A2/ar-AAQ60Vvk</a></p> <p>BSNHK（2021/10/30）：子ども食堂の事業背景等（スポテカラ！） <a href="https://www.nhk.jp/p/ts/LNMQ4YZN77/episode/te/K2QY7J68ZZ/">https://www.nhk.jp/p/ts/LNMQ4YZN77/episode/te/K2QY7J68ZZ/</a></p> <p>秋田放送（2021/11/22）：子ども食堂についての取り組み（「newevery」内）</p> <p>ABSラジオ（2021/11/23）：子ども食堂、その他SDGs活動について紹介（「秋田ヲ叫べノーザンハビネッツ」内）</p> <p>秋田市（2021/12/3）：子ども食堂の取り組みについて（秋田市発行「広報あきた」内 12/3号P21） <a href="https://www.city.akita.lg.jp/shisei/koho/1003635/index.html">https://www.city.akita.lg.jp/shisei/koho/1003635/index.html</a></p> <p>朝日新聞（2021/12/28）：子ども食堂の取り組みについて <a href="https://www.asahi.com/articles/ASPDW6SQWPDHULUC02D.html">https://www.asahi.com/articles/ASPDW6SQWPDHULUC02D.html</a></p> <p>ABSラジオ（2022/1/23）：子ども食堂の取り組みについて（「なんてたって日曜はスポーツ」内）</p> <p>NHK秋田様（2022/1/31）：子ども食堂の取り組みについて（「ニュースこまち」内）</p> <p>SPORTS for SOCIAL（2022/2/25）：子ども食堂の取り組みについて <a href="https://sports-for-social.com/sports/northern-happinets2022/">https://sports-for-social.com/sports/northern-happinets2022/</a></p>
2.広報制作物等 当該事業費を使って製作したもの	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月子ども食堂イベント告知チラシ（50部程度）</li> <li>・8月子ども食堂イベント告知チラシ（50部程度）</li> <li>・9月子ども食堂イベント告知チラシ（50部程度）</li> <li>・秋田ノーザンハビネッツの子ども食堂“みんなのテーブル”Webサイト <a href="https://minna-table.com/">https://minna-table.com/</a></li> <li>・市役所経由困窮家庭向け配布チラシ（6,000部）</li> <li>・一般向け啓蒙・告知チラシ（30,000部）</li> <li>・一般向け啓蒙・告知ポスター（30部）</li> </ul>
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法（事例）	上記チラシ・ポスター・Webサイトに掲載
4.報告書等	<p>食材の寄付などでご協力いただいている組織に対しては、定期的に進捗報告の冊子を作成しお渡ししている。</p> <p>一方で、一般向けについては、当事業を今後も継続しておこなっていくため、特に作成は考えていない。</p>

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績 ※規程類：定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む)	状況	内容
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	整備中	基本的に必要規定は整備しており、他の規定については、議題として検討をしている段階。
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。	必要性の課題感をもつことができ、組織体制ならびに規定類を明確化することができている	
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	未公開	
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	第13期株主総会を2021年9月に実施済み。
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	いいえ	入社時に守秘義務の誓約を結ぶだけでなく、個人情報ならびにコンプライアンスの遵守に関する研修を実施している。
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	いいえ	情報の公開範囲を選定し、公開の必要性に応じて公開する。
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置しましたか。	いいえ	今後検討し、必要に応じて検討する。
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	いいえ	
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input checked="" type="checkbox"/> 外部監査 <input type="checkbox"/> 内部監査 <input type="checkbox"/> 実施予定はない	6月決算のため、決算期に監査を実施する
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	はい	内部に窓口を設置